



特集

氷都とまこまい国体

お知らせ

保育所入所児募集

行政改革推進懇話会委員募集

新小学校校名・校区決定

# この街のかたち

No.1

市民  
さんかく  
コーナー

## 樽前山神社



苦小牧にある一番大きな神社は樽前山神社である。もちろん、近隣の市町村も同じようにその土地に根付いた神社があるだろう。しかし、この街の神社ほど特殊というか、その成り立ちの性質に意外性を感じさせるものは少なくとも胆振近辺には存

在しない。いや、多分、北海道全体を見渡しても無いのではないだろうか。

苦小牧は太平洋に面した港町である。日本で初めて『掘り込み式工法』で作られた港湾を持ち、内地と北海道を繋ぐ（な）く運輸の拠点ともなっている。浜では鮭が釣れるし、名物はホツキ貝だ。これだけ見れば地元民でも、この街は海の幸によって発

作り」だったのだ。

『山線』と聞いて、はっと来る人は生粋の苦小牧人である。昔、支笏湖方面の山地と苦小牧の製紙工場の間には鉄道がひかれていた。山から切り出してきた木を紙に加工することによってこの街は日本一の製紙工場を持つようになった。それとともに街も発展してきたのだ。今でも日本中の新聞紙に使われる紙の生産量の半数近い量をこの街で作っている。よって、苦小牧では、海の神様を祭るのではなく、山の恵によって栄えてきたのだからという先人の強い一念によって山の神様を祭るようになったのである。一昔前までは工場の近くに神社があったのだが、現在は山の頂に移築され、高みからこの街を見守ってくれている。休日、港で魚釣りもよいが、年に一度の初詣で樽前山神社を訪れた時には、ぜひともこのことを思い出してもらいたい。『そうすれば』ご縁がありますように』との願いをこめて『賽さい』銭箱に五円しかいれなくても、山の神様は市民の一年の安泰を約束してくれるはずである。



高山知哉さん(日吉町)の創作です